

令和8年度多摩市予算(案)について

一般会計予算 691億8,000万円（前年度比0.9%増）
3つの特別会計を合わせた総予算 1,029億9,978万円（1.2%増）

変化の激しい社会に柔軟に対応しながら市政を次のステージに向けて歩み出す年度

令和8年度予算編成においては、予算要求段階で約60億円以上の財源不足が生じ、昨年度に続いて大変厳しい予算編成となりました。歳出においては、物価や人件費が上昇したこと等が大きく影響しています。昨年度に続き、物価や人件費の上昇幅に税収の伸びが追い付かない状況が続き、年々予算編成は厳しさを増しています。

状況変化に柔軟に対応しつつ、市民生活に支障が及ばないことを最優先とし、様々な行政課題の解決に向けて着実に施策を進めていく視点で当初予算を編成しました。令和8年度は、第六次多摩市総合計画が4年目を迎え、基本計画の改定を行い、これまでの積み重ねを基礎にして、基本構想で定めた将来都市像の実現に向けた取組を着実に進め、市政を次のステージへとつなげていきます。

総合計画における分野横断的に取り組むべき重点テーマ等を基に、以下の4つの視点で予算編成を行いました。

＜予算編成における4つの視点＞

(1) 環境と共生に向けた取組

省エネルギーの推進と再生可能エネルギーへの転換や地球環境への負担軽減等への取組の他、近年の猛暑等への対応や、頻発化・長期化する災害への対応等を行っていきます。

(2) 健幸まちづくりの推進に向けた取組

市民の健康と幸せを後押しする健幸まちづくりを計画的、体系的に進めていきます。市民、市民団体、事業者、大学そして行政などの多様な主体が互いに協力し、分野横断的にあらゆる世代への健幸的な生活の確保を目指した取組を進めます。

(3) 活力・にぎわいの創出に向けた取組

地域経済の発展、担い手不足の解消、市民生活の向上や魅力あるまちづくりにつなげるため、ニュータウン再生やまちの賑わい創出、地域共生社会の実現に向けた取組を進めます。

(4) 子ども・若者政策に向けた取組

第六次多摩市総合計画の分野横断的に取り組むべき3つの重点テーマ(上記(1)～(3))の他に、こどもまんなかを掲げて子育てに適した環境の維持・充実を図ると共に、子ども・若者政策に向けた取組を進めます。

＜予算の特徴＞

- 1 歳入においては、市税は、継続的な賃上げの影響等を見込む個人市民税の増額等により、市税全体で約3億5千万円の増額としました。その他、個人消費の増等により地方消費税交付金が約5億円、好調な株式市場により株式等譲渡所得割交付金が2億7千万円の増額としました。
- 2 歳出では、物価や人件費の上昇により、補助費等が約6億円、人件費が約5億円増えています。加えて、扶助費が約4億円増加しています。一般会計の予算規模としては691億8千万円と前年度と比較して6億3,000万円の増額となり、過去最高となりました。
- 3 財政指標については、経常経費充当一般財源の増加がありますが、それ以上に市税及び税連動交付金等経常一般財源が増加したことから、財政の硬直化を示す経常収支比率は0.9ポイント減少し、99.3ポイントとなりました。

《歳入》

- ① 継続的な賃上げの影響等を見込む個人市民税の増額等からの市税の増……約3億5千万円
- ② 個人消費の増等による地方消費税交付金の増……約5億円
- ③ 好調な株式市場による株式等譲渡所得割交付金の増……約2億7千万円

《歳出》

- ① 物価や人件費の上昇による補助費等の増……約6億円
- ② 人件費の上昇に伴う人件費の増……約5億円
- ③ 保育給付費や障害福祉サービス費の増等による扶助費の増……約4億円

《主要事業》別紙参照